第 52 回インナーゼミナール大会

# 研究計画書

| ゼミ名 | 宮川ゼミ | チーム名 | マーベラス |
|---|---|---|---|
| タイトル | 推しで掴もう！ハッピーライフ★彡 | | |
| テーマ群 | a)理論・情報 | | |
| メンバー | 浅堀拓海、北知也、辻菜々花、鶴山敦己 | | |
| 研究計画内容 | 研究背景<br>世界幸福度ランキングを見ると、日本は先進諸国の中で最低順位となっている。また、近年大学生の自尊心が低いことが懸念されており、自尊心を上げるための取り組みがさまざまな形で行われている。そこでどのような特性を持つ人の幸福度・自尊心が高いのかに着目した。既存研究では恋人がいる人の幸福度が高いと言われているが、近年若者を中心に注目を集めている「推し」が幸福度や自尊心にどのような影響を及ぼすのかは知られていない。推しについて調べる中で、推しのことを考えている時、脳の中ではオキシトシンという幸せを感じさせるホルモンが放出されるということがわかり、推しが大学生の幸福度や自尊心への影響を研究することは十分に意義があると考えた。<br><br>研究内容<br>本研究では、大学生を対象に推しの有無や推しに費やす時間・金額の大小、推しの種類など推しに関するデータをアンケート調査を通じて収集し、エド・ディーナーの幸福度調査やローゼンバーグの自尊心尺度を測るアンケートも同時に行う。そしてそれらのデータについて回帰分析の手法を用いて、関係を明らかにする。さらに推しとの比較対象として、一般的に幸福度を高めると考えられている恋人や友人についても推しと同様のアンケートを行い、恋人がいる人と推しがいる人の幸福度や自尊心にどれだけの差が出るかや推しならではの幸福度や自尊心に対する影響がないのかを研究する。<br><br>期待される効果<br>この研究結果により、「推し」がすでにいる人もまだいない人も「推し」とどのような付き合い方をしていくのが自分にとってプラスになるのかを知ってもらい、幸福度を高めることで大学生活の充実を図ったり、自尊心を高めることで自分自身を前向きに捉え、就活などの励みにつながると考えている。<br><br>参考文献<br>内田知宏、上埜高志「Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 58 集・第 2 号 p. 262(2010)<br>Diener and Seligman(2004) “Beyond Money :Toward an Economy of Well-Being” Psychological Science,5,p.1~31 | | |